

台湾における老人の居住形態

老人と若夫婦の分離に関する事例的研究 (その2)

鳥飼香代子・頼 蕙 芬*

The Living Styles for the Old in Taiwan

A Case Study of Separate Lives between Old and Young (2)

Kayoko TORIKAI and Hwei-Fen LAI

(Received May 24, 1993)

研究の目的と方法

本研究は台湾における老人同居の居住形態を事例的に把握・検討しようとするものである。その1¹⁾では祖父母と同居しているのは男ではあるが長男とは限らないこと、同居は食事、経済、居住棟ともに一緒のいわゆる完全同居²⁾であることが明らかとなった。そこで本稿では具体的にどのような住居に住みどのような分離の生活をしているのかを明らかにすることが目的である。その結果、同居住宅への示唆が得られると考えられるからである。今日の台湾は年金制度の低さとあいまって同居率はかなり高いといわれている³⁾⁴⁾。しかし高度成長の速さを見ると同居形態の変化がかなり早く訪れる可能性が高いと予想される^{5)~9)}。では、変化するとすればどのようなプロセスを経るのか、またその行きつく先すなわち将来の居住形態はどのようなものになるのかというのが本研究の問題意識であるが、この結論を本稿で出すことは大変困難である。同居世帯の住居と住み方の分析を通して、この変化のプロセスに与える要因の何点かが指摘できればよいのではないかと考え論を運ぶこととする。

まず表1より台湾に住む約2千万人、5百万戸の住宅及び居住の一般的状況をみると、連棟式を

表1 台湾における住宅形態別の住宅戸数

年別	合計	中国式独院式	西式独院式	双併式	連棟式	5階以下のアパート	6階以上のアパート	その他
1981年	100.00	26.20	5.27	5.61	43.74	17.15	1.22	0.81
1982年	100.00	23.96	4.83	6.03	45.36	17.42	1.86	0.72
1983年	100.00	23.32	5.16	5.64	44.42	18.34	2.55	0.48
1984年	100.00	23.26	5.10	5.54	43.97	18.70	3.00	1.43
1985年	100.00	22.68	5.58	4.54	44.38	18.81	3.60	0.41
1986年	100.00	21.00	5.75	4.94	44.06	19.55	3.65	1.05
1987年	100.00	19.94	6.28	5.82	43.48	20.33	3.55	0.60

注：1987年「台湾地区住宅調査報告提要」より

* UMAX DATE System. INC (台北) 勤務

主にしており次いで多いのは中国式独院式そして5階以下のアパートである(6階以上はエレベーターの設置が必要となるため戸数が少ないと思える)。そこで本調査対象は連棟式として一列型都市住宅を、中国式独院式として三合院型農村住宅^{10)~12)}を、5階以下のアパートとしてその他マンションを選定した。

つづいて日本での台湾における住宅関係の論文をみてみよう。なお、老人関係の論文は皆無であった。まず、官営移民村の建設及び集落計画の特徴、移民住宅の平面構成、及び客厅の取られ方、臥室の取られ方を知るために行われた研究¹³⁾がありプライバシーの確保要求が顕著に表われていること、アプローチから臥室あるいは便所と臥室との通りぬけと臥室間の遮音性の低さに関して抵抗感が強く様々な工夫で解決しようとしていることを明らかにしている。ついで、新築住宅の住まいの現状と理想的な考え方について考察している研究¹⁴⁾があり三合院型農村住宅からコンクリート造りの箱型住宅への平面構成と空間機能の変化過程及びその変化の生じた原因を明らかにしたものである。一方、都市集合住宅についての研究¹⁵⁾¹⁶⁾では台湾において公私室型住居が幅広く普及しつつあることが指摘されている。以上既存研究によって台湾の住居の変化・実態・新しい傾向についてほぼ明らかになっているといえる。本稿ではこれらの点を踏まえ老人と若夫婦の分離生活がどの程度浸透しているかを明らかにしようとするものである。

調査は具体的に家族全体の住居や生活及び老人室をみるため、事例的な住み方調査を実施した。調査対象は台北市¹⁷⁾に隣接する土城郷¹⁸⁾¹⁹⁾という地方都市居住者30例と台南市4例であり、調査日は1990年3月5日より1週間である。調査の内容については間取りの採取は家具、設備を含むものとした。ヒヤリング調査は住居、部屋の用途、老人室と生活、家族室と生活、その他(家族の歴史、増改築、住まいに関する意見)であった。写真撮影は全景(外観と周辺、玄関)、応接間(L)、台所(K)、食事室(D)、祭壇室、各部屋、その他特徴的な箇所とした。

結果および考察

1 調査地区の概要

土城郷の面積は約30平方キロ、人口は約9万人であるが台北市に近接するためここ数年人口が急増し、土地の値段が急騰しつつある新興の都市周辺地域である。この地域を対象として選定したのは新興の都市周辺地域のため3タイプの住宅が見つかりやすいと考えたからである。なお面積の24%は農業用地であり農作物は米を主とするがそのほか茶の産量も多いなど典型的な農家が多いと考えられる。なお、ここの住民は中国大陸の泉州からの移住者である。台南市については省略する。

2 延床面積

60坪~70坪未満の戸数が圧倒的に多く(7例)、そして40坪~50坪、50坪~60坪、80坪~90坪はすべて4例である。80坪から90坪未満と100坪以上の延床面積の大きい住宅はいわゆる三合院型農村住宅がほとんどである。1987年「台湾地区住宅調査報告提要」によると、平均面積は28.6坪であり、この地区の住宅面積は台湾の平均より広いことがわかる。

3 築年数

住宅の築年数が10年以内の住宅はわずか3例である。10年~15年未満と15年~20年未満の

は同じく5例で、20年～30年未満3例、30年～40年未満2例、40年～50年未満1例で、50年～100年未満2例、100年以上は10例である。築年数はかなり古いものが多いことがわかる。

4 住宅のタイプ分類

住宅の違いによって間取りや住生活なども違って来るのではないかと考え、住宅のタイプを表2の様に「一列型都市住宅」（今後は都市住宅という）、「三合院型農村住宅」（今後は農村住宅という）、「その他・マンション」の三つに分類した。今回の調査は都市住宅14例、農村住宅16例及びその他・マンション4例である。図1より都市住宅は1階が店舗、2階以上を住宅として使用している2～4階建ての住宅であることが分かる。図2より農村住宅は台湾の伝統的な住宅で大家族と一緒に住み、大家族内の身分や地位によって部屋の位置が決まっているタイプ²⁰⁾である。住宅

表2 間取りのタイプ別にみた住宅タイプ 単位：戸

住宅のタイプ 間取りのタイプ		計	1列型 都市住宅	3合院型 農村住宅	その他 マンション
計		34	14	16	4
4室	祭壇室・L・D・K	7	3	4	—
3室	祭壇室・L・DK	6	5	1	—
	祭壇室L・D・K	5	1	3	1
2室	祭壇室L・DK	5	2	2	1
祭壇室無し		4	1	2	1
その他		3	1	2	—
不明		4	1	2	1

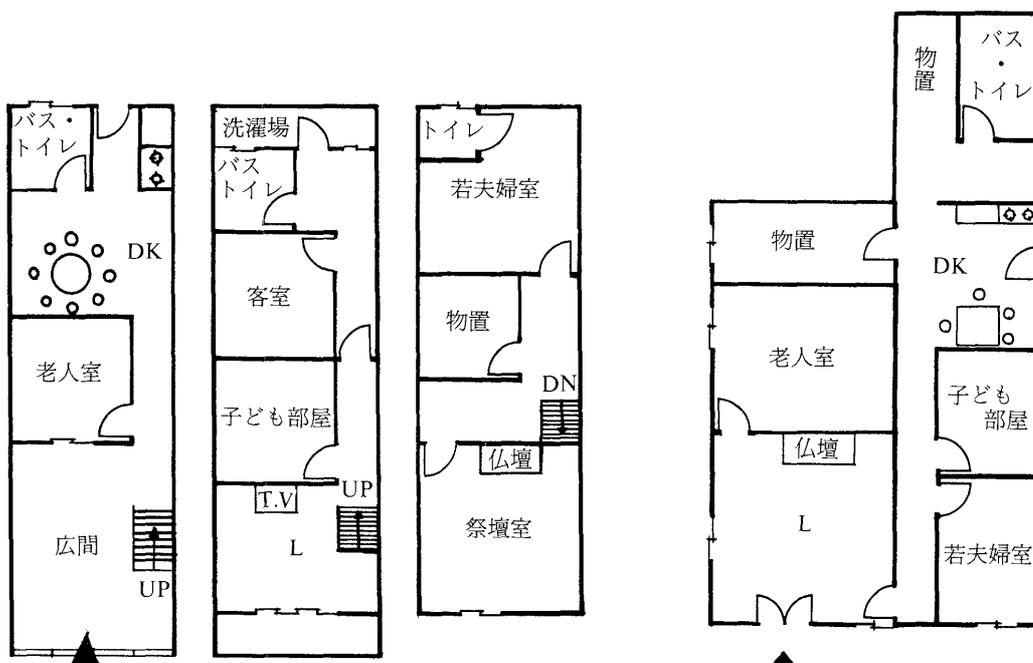


図1 一列型都市住宅

図2 三合院型農村住宅

全体はレンガで建てられている。なおその他・マンションは日本と類似した間取りであるため省略した。

5 間取りのタイプ分類

間取りのタイプはどの住宅にも共通してみられる祭壇室²¹⁾²²⁾・L・K・Dの空間に注目すると主に四室タイプ、三室タイプ、二室タイプに分類できた(表2)。なお老人と若夫婦別々にこれらの部屋を確保している世帯はみられなかった。四室タイプというのは祭壇室・L・K・Dのそれぞれを独立させているタイプである。三室タイプは祭壇室とL兼用、DとKが分離、あるいはDとKが兼用、Lと祭壇室が分離されているタイプである。二室タイプは祭壇室とLが兼用、又はDとKが兼用されているタイプである。このように三室タイプが大半を占めていることがわかる。しかし、祭壇室・L・D・Kの相互関係をみてみると、四室が独立しているのは7例、祭壇室とLが兼用しているのは10例、DとKが兼用の場合は11例である。各タイプの差はあまりないが、DとKが兼用されている方が少し多いことが明らかである。さて、続いて間取りタイプ別の住宅タイプを考察してみよう。都市住宅の14例の中では、最も多くの間取りタイプが祭壇室・L・DKの三室タイプであり(5例)、農村住宅の16例の中では最も多いのは祭壇室・L・D・Kの四室タイプである(4例)。なお次いで多いのは祭壇室・L・D・Kの三室タイプである(3例)。このことから都市住宅農村住宅ともに祭壇室を独立させる、すなわち昔からの伝統的空間を独立して確保する傾向が強いことがわかる。また、その他・マンションなど新しい住宅にもLと兼用ではあるが祭壇室が取られている点も大きな特徴といえよう。祭壇室なしというタイプは4例しかない。そのうちわけをみてみると都市住宅1例、農村住宅2例、その他・マンション1例である。祭壇室がない要因を考えてみると、若夫婦のみの世帯が2例あるがこれは親の家から出て新しい家に住み始めたところであるためであり、残りの2例は農村住宅であり共通の祭壇室を利用しているからである。

6 L・D・Kの相互関係

ここでは、祭壇室を無視し、L・D・Kのそれぞれの相互関係を検討してみる。L・D・Kの相互関係はLを独立させDとKが兼用しているのが最も多く(14例)、次ぎに多いのはL・D・Kそれぞれを独立させているのである(12例)。この二つの関係の共通点であるLを独立させていることから、L空間の独立性が非常に高いことがわかる(34例の中で26例)。さて、この三つの空間の中で、どれとどれを兼用する傾向があるかをみてみよう。まず、配置の組合せはL・DK、LD・K、LK・Dの三つに分けることができた。L・DKは14例、LD・Kは4例、LK・Dは1例もない。こうしてみると、公的空間の独立はLからKへ、KからDに進むということが明らかである。また、DとKが一番兼用しやすく、逆にLとKが兼用するのは皆無であることがわかる。

7 家族構成

表3より、一般的な家族構成は「祖父母+両親+子ども」の直系家族三世代同居であり全体の約50%と多数を占めている。だがここに少数ではあるが「祖父母+2単位以上の両親(兄弟夫婦)+子ども」の大家族の三世代同居がみられる。こういう家族構成の世帯が都市住宅に住む場合は、階ごとに各世代が住んでいるという生活スタイルをとっている現象がみられる(すなわち1階店か祖父母、2階祖父母か兄夫婦、3階兄夫婦か弟夫婦という具合である)。子供人数が減少しつつある現在では、このような大家族や居住形態は減っていくと思われる。なお「曾祖父母+祖父

表3 家族構成別の家族人数

単位：戸

タイプ	家族人数 家族構成	家族人数														不明	
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		14
	計	34	1	1	2	4	7	6	3	4	2	—	—	1	1	1	1
四世代同居	祖父母・母 祖父母 両親 子ども	2								1	1						
	祖父母 2単位以上の両親 子ども	3									1				1	1	
三世代同居	祖父母 両親 子ども	18				2	6	5	2	2				1			
	祖父母 両親 子ども 祖父母の未婚の子ども	1								1							
	祖父母 両親の子ども 祖父母の未婚の子ども	1							1								
二世世代同居	祖父母 両親の子ども 祖父母の未婚の子ども	3		1	1		1										
	祖父母 祖父母の未婚の子ども	3		1	1		1										
	その他	6	1														

母+両親+子ども」という四世代同居は2例である。二世世代しか住んでいない世帯は4例であり、そのうちわけをみると「祖父母+両親の子ども（孫）」が4例である。「祖父母+孫」という家族構成の要因は住宅の規模や両親の仕事などにあるのではないかと思えるが今回の調査では確定できない。さて、各世帯の家族人数は4人～6人にピークを持ち8人を超えた世帯は9例であり、そのうちわけをみると四世代同居2例（8人，9人），「祖父母+2単位以上の両親+子ども」3例（9人，13人，14人），三世代同居3例（8人2例，12人1例），「三世代同居+未婚の祖父母の子ども」1例（8人）である。家族人数はかなり多いといえる。

8 老・若世代の職業状況

まず老世代からみてみよう。祖父母二人とも健在の15例の中で，二人とも仕事を持っているのはわずか3例であり片方だけ仕事を持っているのは2例である。なお祖父母のうちどちらかが亡くなった世帯が10例あり，そのうちのほとんどは仕事をしていない（8例）。残った2例はすべて祖父であり，職業内容は農会職員と調理師である。つまり老世代の中で仕事を持っているのは少数であり，仕事の内容は家業や商売，公務員などである。なお老世代の健康状況は足が少し不自由な例が1例，下半身が不自由な例も1例，特にはないがあまり良くないが1例であり，一般的に良いといえる。つづいて若世代をみてみよう。父親と母親に分けてみると，父親の場合は亡くなった1例を除くと他の父親は仕事を持っている。その内容は，労働者（タクシー運転手，店員

など13例)が最も多く次いで会社員(7例),その他は家業,軍人,公務員などである。母親の場合は職業婦人よりも専業主婦の方が多いことがわかる。その内容をみてみると,やはり労働者や会社員が多いことがわかる。

9 老人の昼間の過ごし方

表4より,老人の昼間の過ごし方は運動・散歩,お寺・廟²³⁾に行く,のんびりするの三つが中心であることがわかった。この中で注目すべき点は運動・散歩やお寺参りの両方あるいはどちらかに該当する老人が全体の70%を占めていることである。その他昼寝,趣味,子守りなどもみられる。仕事をしている例も7例ある。少数しかみられないのはテレビを見ることと家事をすることである。このことから家の中に閉じ籠っているのではなく,外に出ていることが多いといえる。特にお寺・廟に行く場合の頻度は多く「毎日」「一日おきに」がほとんどである。お寺・廟ではお祈りをしたり,屋台で買物をしたり,同じように来ている老人とおしゃべりをするなどをして3~4時間を過ごす。お寺・廟は昼間の老人のたまり場となっている。つまり家で若夫婦と顔を突き合わせて過ごすというよりは,お寺や廟などのたまり場を地域の中に持ってあり,そこで過ごすことが一般的である。このことは,若夫婦とはほどよく分離独立した独自の生活の場と時間を持っているといえる。この点が完全同居であっても,若夫婦との間に軋轢が生じにくい一因になっているのではないかと思われる。

ほとんどの老人は夜の生活はテレビを中心にするのが明らかであった。その他極めて少数だが就寝,仕事,読経,夕飯の用意などがみられた。

以上より老人の生活には昼間に運動・散歩をしたり,お寺あるいは廟に行ったり,のんびりしたりして,夜にテレビを見ながら家族と団らんするという一日の生活パターンがみられた。

10 L空間の利用実態

表5より就寝と記帳はL空間で行われていないことがわかる。料理を作る,内職,趣味,昼寝などの行為もほとんど行われていない。しかし逆に接客行為はすべてL空間で行われていることが明らかであり,その他団らん,テレビを見る,新聞を読む,夕食後くつろぐ,お茶を飲むなどの行為はL空間で行われている。子守,家事,食事などは20%くらいを占めており,おやつを食べるや,のんびりする,行事などは約半数を占めていることがわかる。なお老人用の別の空間がないことからL空間は老人と若夫婦共通の接客,団らんを中心とした空間として利用されているといえる。ヒアリング調査によるとDの利用実態については老人と若夫婦共通の食事空間として使用されており,食事以外の行為は行われていないことが特徴である。祭壇室の利用実態については,まず独立祭壇室の場合,朝晩長男が線香を立てて家族皆の健康などを祈るだけであり,ほかの利用(例えば,接客や団らんなど)はほとんどされていない。次ぎに非独立祭壇室の場合(すなわち他の空間と兼用)は朝晩,線香を立てることはもちろんするが他の目的にもよく利用されており全体的によく使われていることがわかる。なお祭壇室は日本でみられる様な老人の生活との特別な関係はみられなかった。

11 都市住宅における各階の利用実態

表6より,都市住宅における各階の利用実態については以下の特徴がみられる。

1. 1階は店舗で2階以上を住宅として使用している例が大半を占めていること。
2. 各階にバス・トイレを設置している住宅がほとんどであること。しかし,必ずしも老人のプ

表4 老人の過ごし方（昼間）

世帯番号 ／ 過ごし方	家事	子守り	テレビを見る	昼寝	仕事	趣味	のんびりする	運動、散歩	お寺参り	その他
1		○			○			○	○	
2							○	○	○	
3				○			○			
4				○			○	○		
5		○								
6							○			
7								○	○	
8							○			
9									○	
10						○			○	
11										
12							○		○	
13						○				
14	○		○	○						○
15					○			○	○	
16								○		
17				○	○		○	○	○	
18						○				
19				○				○		
20							○	○	○	
21								○	○	
22		○	○					○		
23								○	○	
24							○		○	
25					○					
26	○	○			○			○		
27				○				○	○	
28					○		○			
29								○		
30					○					
計	2	4	2	6	7	3	10	15	13	1

表5 L空間の利用実態

世帯番号	利用	就寝	読書	新聞読み	接客	お茶を飲む	を食べる おやつ	食事をする	書きもの	家事	のんびりする	昼寝	趣味	内職	子守り	夕食後	くつろぐ	行事に使う	料理を作る	テレビを見る	音楽を聞く	だんらんする
1					○						○				○			○				○
2			○	○							○					○	○			○		○
3			○	○	○	○	○	○			○	○			○	○				○		○
4			○	○	○	○	○	○					○			○				○	○	○
5		○			○					○	○				○	○	○			○		○
6				○	○						○					○	○			○		○
7																						
8				○	○	○				○						○	○			○		○
9																						
10																						
11				○	○	○	○							○	○	○				○		○
12				○	○	○	○	○								○	○			○		○
13				○	○	○					○					○	○			○		○
14		○	○	○	○	○					○					○	○			○		○
15				○	○									○	○	○				○		○
16		○	○	○	○	○					○									○		
17				○	○	○	○						○					○				
18				○	○	○	○			○						○				○	○	○
19				○	○	○	○	○		○						○				○	○	○
20				○	○	○		○			○					○				○	○	○
21				○	○	○	○								○	○	○			○		○
22		○	○	○	○	○	○	○		○	○					○	○			○	○	○
23				○	○						○	○								○		○
24																						
25				○	○	○	○				○	○				○				○	○	○
26		○	○	○	○	○	○				○					○				○	○	○
27				○	○	○					○					○				○	○	○
28				○	○	○	○			○					○	○				○	○	○
29				○	○	○	○				○					○				○	○	○
30					○	○										○				○		○
31		○	○	○																○	○	○
32		○	○	○	○	○					○		○			○	○			○	○	○
33		○	○	○	○	○	○				○					○	○			○	○	○
34				○	○	○	○	○			○		○			○	○	○	○	○		○

7, 9, 10, 24 は不明

表6 都市住宅における各階の利用実態

世帯番号	1階	2階	3階	4階
17	店舗, バストイレ 老人室, LDK	若夫婦室, 多目的室 バストイレ	*	*
18	店舗	L, 子ども部屋 バストイレ, DK	老人室, 麻雀室 バストイレ	若夫婦室, 祭壇室 バストイレ
19	店舗	L, DK, 老人室 若夫婦室, バストイレ, 祭壇室	*	*
21	店舗	L, 若夫婦室, 老人室 バストイレ, 祭壇室	DK, バストイレ 父の弟の部屋	*
24	パチンコ	LDK, 老人室 若夫婦室, 子ども部屋, バストイレ	*	*
25	スーパーマーケット	L, DK, 老人室 バストイレ	L, 長男夫婦室 3男夫婦室, バストイレ	次男夫婦室 祭壇室, バストイレ
26	L, DK, バストイレ 子ども遊び部屋	老人室, バストイレ 父の弟の部屋	若夫婦室, バストイレ 祭壇室	干し場 テラス
27	L, D, K 老人室, バストイレ	若夫婦室 バストイレ	父の弟の空間 バストイレ	祭壇室 テラス
28	L, DK バストイレ	老人室, バストイレ 若夫婦室	父の弟の部屋 バストイレ	祭壇室, テラス バストイレ
29	L, K, 若夫婦室 バストイレ	D, 子ども部屋 バストイレ	娯楽室 バストイレ	祭壇室 テラス
30	老人室, DK バストイレ	L, 子ども部屋 父の妹の部屋, バストイレ	若夫婦室 祭壇室, バストイレ	*
31	DK, バストイレ 塾教室	L, バストイレ 生徒の休憩室	子ども部屋 若夫婦室, バストイレ	書斎 塾教室
33	店舗 DK	祭壇室 L, バストイレ 若夫婦室, 仕事部屋	子ども部屋 テラス	*
34	店舗	店舗の人の家	LDK 祭壇室, 若夫婦室 子ども部屋, バストイレ	洗濯場, トイレ 干し場

注：* この階建物無し

ライバシーのためではなく賃貸しやすいためという理由もうかがえる。

- 若夫婦室と老人室は階の違いにより分離される世帯の方が多く、老人室より若夫婦室の方が上の階に配置されている。
- 祭壇室の位置は住宅の一番上の階に配置されているがこれには二つの理由が考えられる。一つは神の上に物を置いたら非常に不敬な行動になると考えられているからであり、もう一つは、祭壇室を一番上の階に置くと天に近くなり、願い事が神様に伝えられ易いと考えられているからである。

12 老人室の特徴

12-1 老人室の有無・数・広さ

34 例中 30 例までに老人専用室が確保されているが老人室の部屋数は全部 1 室である。老人室の広さは 2 坪から 3 坪までが 6 例、3 坪から 4 坪と 4 坪から 5 坪までの同じく 7 例で、これを超えると対象の数はかなり少なくなる。なお、不明が 4 例ある。以上より大体 2 坪から 5 坪未満の広さの場合が大半であることがわかる。なお専用に確保されていない世帯 3 例のうち 2 例は子供部屋との兼用であり残り 1 例は客間との兼用であった。他の家族員と比較して特に配慮はみられなかった。

12-2 老人室の設備及び置かれている家具

表 7 よりベッドが置かれているのは 30 例の中で 16 例、タンスは 21 例、机は 17 例、炕床（伝統的ベット）は 9 例である。なおベッド、机、タンスが置かれている割合がほかの設備より高いことをみるとここでもこの三つが老人室の基本的な設備といえる。台所の設置は 1 例にみられるのみである。しかしこの世帯は若夫婦空間に設置されている台所を使っていない。すなわちこの世帯も食事の分離は行っていない。冷蔵庫の設置がわずかだがみられる。バス・トイレの設置をみると 3 例 10% である。老人空間の分離はまず就寝室が確保され、次にバス・トイレ、最後に台所という順序で進んでいく傾向がみられた。

つづいて家族との団らんの分離を反映するテレビ、ラジカセ、ステレオ、カラオケの設置をみてみよう。テレビが置かれているのは 7 例、ラジカセ 6 例、ステレオ 1 例、カラオケ 1 例である。所有率があまり高くないことからみると老人は自分の部屋でテレビを見たり、音楽を聞いたり、カラオケで歌ったりすることはみられないといえる。つまり老人室で老人がゆっくりと過ごす、あるいは家族の誰かがやってきて団らんをするということはほとんど行われていないことが明らかである。ソファの設置も少数しかみられず（3 例）、このことから接客を老人室ですることはあまり行われていないと考えられる。家具からみると老人室は就寝室としてのみ使われると考えよう。

12-3 老人室の位置の特徴

老人室の位置の特徴²⁴⁾を老人室と L・D・K との位置関係及び若夫婦室・祭壇室との位置関係から考察したい。まず L と隣接させているのは 16 例、D と隣接させているのは 5 例、K と隣接させているのはわずか 3 例である。L と隣接させているのが大半を占めていることがわかる。また、D よりも K の方を分離させている傾向がみられる。しかし L・D・K を公的空間として一括してみると、老人室は非常に公的空間と隣接させている特徴がみられる（29 例の中で 24 例）。つまり、老人室は公的空間に一番近いところにとられるといえる。

さて、老人室と若夫婦室及び祭壇室との位置関係は老人室を若夫婦室と隣接させているのは 3 例、分離させているのは 17 例である。祭壇室の場合は隣接させているのは 9 例、分離させているのは 14 例である。若夫婦室と隣接させているのはわずか 3 例にすぎないことからみると、老人室は若夫婦室と分離させる傾向がかなり強いといえる。老人室と祭壇室との分離状況は若夫婦室とのように強くみられない。

また、間取りからみると（図 2）、農村住宅での老人室は祭壇室のすぐそばの部屋を取り、若夫婦室はここから離れた両側の部屋を取る。老人室と若夫婦室はこういう方法で分離させていることがわかる。一方都市住宅の場合は（図 1）住宅は 2~4 階建て位の建物から、大体 1 階は老人室

表7 老人室の設備及び置かれている家具 (6, 9, 16, 24 は不明)

世帯番号	ベッド	炕床	マット	机	椅子	ソファ	タンス	ファンシー	チェスト	テレビ	ラジカセ	ステレオ	カラオケ	電話	鏡台	バストイレ	台所	冷蔵庫	その他
1		○					○							○					
2		○		○	○		○			○	○			○	○				
3		○		○			○												
4	○			○	○		○	○	○		○								
5	○		○	○	○		○			○	○				○				
6																			
7	○			○	○	○				○				○		○	○	○	○
8		○		○	○		○		○										
9																			
10	○						○			○									
11	○			○	○		○												○
12		○	○		○			○		○									
13		○					○					○							
14	○			○	○	○	○							○	○	○			○
15		○						○											○
16																			
17		○					○	○					○						
18	○			○			○												
19	○			○	○		○				○								
20	○						○								○				
21		○					○								○				
22	○			○			○							○	○				
23	○			○	○		○				○								
24																			
25	○			○			○				○			○					
26	○			○	○	○	○		○	○					○	○			○
27	○			○			○	○							○				
28	○			○	○		○		○	○				○	○				
29																			
30	○			○	○		○		○	○				○	○				
計	16	9	2	17	13	3	21	5	4	7	6	1	1	7	9	3	1	1	5

で、2階か2階以上が若夫婦室である。階によって老人室と若夫婦室を分離させる傾向がみられる。

12-4 老人室の使われ方

表8より、就寝と昼寝が最も多く、次ぎに読書である。これは老人室の設備の傾向と一致している。趣味、子守、家事などの軽い労働や、お茶、おやつを食べたりの簡単なくつろぎ、また夕食後つろいだりすることもあまりみられない。このことから老人室は就寝空間に近いものであり、就寝以外あまり使っていないといえる。1例だが寝る、食べる、団らんする、接客するなどすべての生活行為を老人室で行なっている例がみられる。これは、この世帯の老人は下半身が不自由であるため家族全員の食事や接客や団らんなど日常生活行為のすべてが老人室の中に入り込んだ例である。日常生活は老人室を中心に行われており、今回の調査の中で特別な例である。

13 生活における老・若世代の分離状況

13-1 経済面の分離

交際費の若世代負担は20例、若世代と老世代一緒に負担は1例、老世代負担は3例である。家計費からみても交際費と全く同じ状態になっている。以上より、老世代はほとんど若世代に扶養されていることが明らかである。その中で交際費や家計費を負担している老世代の収入源をみると、家業の経営からの1例、仕事の給料からの2例であった。

13-2 家事の分担状況

表9より、若主婦が仕事をしている世帯では半分以上の家事は老人が分担していることがわかる。一方、若主婦が仕事をしていないいわゆる専業主婦の場合家事の大部分を分担していることが明らかである。なお家事の内容を分けてみると、老人の家事の分担のうち最も多いのは子守で、次ぎに調理である。ところで、若主婦と老人と一緒にする家事をみると、仕事をしている若主婦の場合は老人は老人室の掃除と洗濯を手伝うことが最も多いが、仕事をしていない若主婦の場合は家全体の掃除が最も多いことがわかる。つまり、若主婦が仕事をしているとき家事を分担して若主婦を助けている。

13-3 食事・団らん・接客の分離

主要な生活行為である食事・団らん・接客における老・若世代の分離状況をみてみよう。表10よりまず食事、団らん、接客の全てが老・若世代で完全に分離している世帯はないことが明らかである。食事はほとんどが一緒にするが(90.9%を占める)団らんは約70%一緒になっており、同じく接客は約60%強を占めている。つまり老・若世代の日常生活は食事の分離はほとんど行なわれていないが、団らんや接客の分離が一定進んでいることがわかる。食事の分離がほとんど進んでいない要因を考察すると、中華料理の特性(大皿で出て、みんなで分けて食べる)も大きく影響していると考えられるがもう一つ食事内容が老・若の世代間であまり変化していない(例えば日本のように老世代は和食、若世代は洋食傾向)こともあると思える。

14 同居に関する意見

同居に関する意見は調査対象者へのヒアリング方法で聞き取ったものである。具体的には同居の開始時期、良かった点、不便な点、改善したい点などの内容を、さらに同居開始時期は「結婚

表8 老人室の使われ方

世帯番号	使われ方	就寝	読書	新聞読み	接客	お茶を飲む	おやつを食べる	食事をする	書きもの	家事	のんびりする	昼寝	趣味	内職	子守り	夕食後くつろぐ
1		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>				
2		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
3		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>				
4		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>									<input type="radio"/>				
5		<input type="radio"/>								<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
6																
7		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
8		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>									<input type="radio"/>				
9																
10																
11		<input type="radio"/>														
12		<input type="radio"/>									<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
13		<input type="radio"/>											<input type="radio"/>			
14		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
15		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>				
16		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>				
17		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>				
18		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
19		<input type="radio"/>														
20		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>				
21		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>				
22		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>				
23		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
24																
25																
26		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
27		<input type="radio"/>										<input type="radio"/>				
28		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>								<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
29																
30		<input type="radio"/>														

6, 9, 10, 24, 25 は不明

表9 年齢別の家事分担 老親(母)

年齢	洗濯		食事				掃除		子守り	健康状況
	洗濯	洗濯物たたみ	おかず決める	調理する	買い物	後片付け	老人室の掃除	その他の掃除		
76	○	○	○	○	○	○	○	○		良好
73										良好
72										あまりよくない
70							○		○	足が少し不自由
70										良好
69	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良好
68										良好
68									○	良好
65										足が少し不自由
64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良好
63							○	○	○	良好
62	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良好
61	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良好
60	○	○							○	良好
59	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良好
58						○	○	○		良好
55	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良好
55	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良好
55	○	○	○	○	○	○	○		○	良好
54	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良好
53	○	○	○	○	○	○	○	○	○	良好
52							○	○	○	良好
51	○	○	○	○	○	○	○	○		良好
46									○	良好

○：家事を担当している

表10 食事・だんらん・接客の分離
単位：％

分離状況 \ 行為	食 事	だんらん	接 客
老・若世代 一緒	90.9	68.2	63.6
老・若世代一緒に することもある 別々にすることも ある	9.1	31.8	36.4
老・若世代 別々にする	0	0	0

な点はあると答えた人は1人であり具体的には「うるさい」であった。改善したい点は回答者はいなかった。

ま と め

台湾における同居世帯の住生活の特徴をまとめると以下のようなになる。

1) 間取りのタイプは祭壇室とLが兼用かDKが兼用の3室タイプが多かった。なお老人と若夫婦別々にこれらの部屋を確保している世帯はみられなかった。又老人室として特別な設えをしている世帯もみられなかった。

2) 一般的な家族構成は「祖父母+両親+子ども」の直系家族三世代同居であったが少数ではあるが「祖父母+2単位以上の両親(兄弟夫婦)+子ども」の大家族の三世代同居がみられた。

3) 老人の昼間の過ごす場所としてお寺や廟が重要な役割を果たしており、道教や儒教の教えが残っている台湾においてこの宗教信仰生活が同居の緩衝的役割を果たしていることがわかる。

4) L空間は老人と若夫婦共通の接客、団らんを中心とした空間として利用されているといえる。又D空間は老人と若夫婦共通の食事空間として使用されており、食事以外の行為は行われていないことが特徴である。

5) 大半の老人室は専用に確保されていたが分離した生活を送るための設備はほとんど整備されておらず、ベッド、机、タンスが老人室の基本的な設備といえる。又老人室は就寝以外あまり使っていないといえる。

6) 老・若世代の日常生活は食事の分離はほとんど行なわれていないが、団らんや接客の分離が一定進んでいた。

これからの同居世帯はお寺や廟などの社会施設の利用、老人室の設備の整備、団らんや接客の分離に影響されながら変化を遂げて行くと考えられる。

謝辞 当調査に協力していただいた対象世帯の皆様と対象世帯の紹介から案内・通訳まで調査全般にわたりご尽力いただいた故頼木通先生に深く感謝いたします。

時に「子供の誕生後」「その他」という三つの答えを設定して聞いた。その結果については、まず同居している世帯のすべては結婚時に同居が始まったということが明らかになった。日本で比較的多くみられる新婚時代は別居、子供の誕生をきっかけに同居する場合は今回の調査ではなかった。又その他もなかった。良かった点は、まず良かった点があると思う人が約70%を占めており全然無かったと答えた人は皆無であった。無回答は約30%であった。具体的な良い点としては助け合うことができるとの答えが大半であった。不便

注および参考文献

- 1) 鳥飼香代子・頼恵分：台湾における老人の居住形態・熊本大学教育学要第 39 号, pp. 161-181, (1990 年)
- 2) 完全同居とは居住棟, 経済, 食事が一緒に行なわれる同居のこと
- 3) 周建卿編：『老人福利』国立編図館主編台湾商務印書館発行, (1983 年)
- 4) 台湾地区青少年及老人状況調査報告分析 (1987 年)
- 5) 中華民国台湾省基本省政資料・台湾省政府新聞処編印 (1989 年)
- 6) 中華民国台 地区現住戸口統計表 (統一, 続二), (1990 年 6 月)
- 7) 載家雄：『老人問題與老人福利』正中書局, (1988 年)
- 8) 徐立忠：『老人問題與对策』桂冠図書, (1989 年)
- 9) 許水徳：『老人福利行政之研究』文景出版社, (1987 年)
- 10) 三号院型は住宅棟が南庭を囲むようにコの字型を形成し, 正面に祭壇室東側に老人室西側に長男夫婦という様に寝室を確保していく傾向がある。
- 11) 台湾地区住宅調査報告提要 (1987 年)
- 12) 林会承：『台湾伝統建築手冊』芸術家出版社, (1987 年)
- 13) 青木正夫・坂木磐雄・中園真人・郭永傑・金沢陽一・村木洋一：台湾における日本時代農業移民住宅の変容に関する研究 (第 1 報～第 4 報)・日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿), pp. 873-880, (1987 年)
- 14) 文一智・竹下輝和：台湾の農村における住宅形式の変化過程に関する研究・日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp. 861-862, (1989 年)
- 15) 小林利武・青木正夫・江上徹・中園真人・郭永傑・金沢陽一・村木洋一：台湾における公的分譲マンション (国民住宅) の平面構成と住まい方 (第 1 報～第 2 報)・日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp. 9-10, (1988 年)
- 16) 村木洋一・青木正夫・江上徹・中園真人・郭永傑・金沢陽一：台湾における都市集合住宅の発展に関する試論的考察 (第 1 報～第 2 報)・日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp. 13-16, (1988 年)
- 17) 台北市重要統計速報第 115 期・台北市政府主計処編印 (1990 年 7 月)
- 18) 郭中端・堀込憲二：『中国人の街づくり』相模選書, (1980 年)
- 19) 城簡介・土城郷公所 (1985 年 3 月)
- 20) 図 1, 図 2 を参照
- 21) 祖先崇拜と家運繁盛のため多くの世帯は道教の祭壇室を持っている。
- 22) 徳忠：『道教史』山川出版社, pp. 7-10
- 23) 22) 参照
- 24) 図 1, 図 2 参照
- 25) 本間博文：三世代同居家族の住計画に関する基礎的研究 (第 1 報)・日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp. 61-62, (1988 年)
- 26) 細内正紀・藍澤宏：三世代同居家族の住計画に関する基礎的研究 (第 2 報)・日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp. 63-64, (1988 年)
- 27) 本間博文・藍澤宏：三世代同居家族の住計画に関する基礎的研究 (第 3 報)・日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp. 251-251, (1989 年)
- 28) 渡辺広道・細内正紀・藍澤宏：三世代同居に対する共同住宅居住者の意識に関する研究・日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp. 253-256, (1989 年)
- 29) 鳥飼香代子・榎田明子：完全同居世帯における居住空間の分離・熊本大学教育学部紀要, pp. 125-143, (1987 年)